

令和7年度「全国学力・学習状況調査」の結果 －分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について－

区名	城東区
学校名	関目小学校
学校長名	三島 公徳

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和7年4月17日（木）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数・理科）に関する調査」と「児童質問調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査

- ・国語
- ・算数
- ・理科

(2) 質問調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・関目小学校では、第6学年 88名

令和7年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

国語・算数・理科すべての教科において、大阪市平均・全国平均を上回る結果となっている。また、平均無回答率についても、全国平均より大幅に低い数値となっており、最後までしっかりとと考え、回答しようとしていることが分かる。
児童質問用紙については、自己有用感に関する項目は、ほぼ平均値と同じ肯定的回答率となっている。ICT機器の活用に関しては、平均値より下回る肯定的回答率となっている。

分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

〔国語〕

全ての領域において大阪市平均および全国平均を上回る成果が見られた。特に、昨年度は大阪市平均を下回っていた「話すこと・聞くこと」の領域において、今年度は平均を上回る結果となり、大きな伸びが見られた。このことは、昨年度より研究教科として国語科に取り組み、児童同士が互いの考えを伝え合いながら深めていく「話し合い活動」の工夫を重ねてきた成果であると考えられる。

〔算数〕

全ての領域において大阪市平均および全国平均を上回る成果が見られた。一方で、図形の領域においては、他の領域と比べて正答率がやや低い傾向がある。図形の性質を理解し、筋道を立てて考える力の育成が今後の課題と考える。今後は、図形を実際に操作したり作図したりする活動を通して、空間的なイメージをもとに論理的に考える力の育成に取り組んでいく。

〔理科〕

全ての領域において大阪市平均および全国平均を上回る成果が見られた。特に、「生命」を柱とする領域では、全国平均をおよそ10%上回る正答率を示しており、日常生活や自然との関わりの中で学んだ知識を的確に活用できていることが考察できる。今後も、理科専科による継続的な指導を進め、児童が主体的に観察・実験に取り組む授業づくりを進めることで、自然事象を科学的にとらえ、課題を自ら見いだして解決していく「問題解決の力」を育成していく。

質問調査より

「自分には、よいところがあると思いますか」という質問では、「当てはまる」と回答した児童の割合が大阪市平均・全国平均を上回っており、自己肯定感の高まりが見られた。しかし、「どちらかというと当てはまる」も含めた肯定的な回答の割合では、大阪市平均・全国平均を下回っており、自己理解をより深めていく支援の必要性がうかがえる。

また、「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」という質問に対しても、肯定的な回答の割合が高く、日常的な関わりの中で教員による承認的な働きかけが定着していると考えられる。今後も、児童一人ひとりが自分のよさに気づき、自信をもって学校生活を送ることができるよう、自己有用感を高める取り組みを継続していく。

さらに、「学校に行くのは楽しいと思いますか」という質問においても、肯定的な回答が大阪市平均・全国平均を上回っており、児童が安心して学校生活を送っている様子がうかがえる。今後も、温かい人間関係づくりと居心地のよい学級づくりを進め、児童がより意欲的に学びに向かえる学校づくりを目指す。

PC・タブレットなどのICT機器を活用することについての質問では、「友達と協力しながら学習を進めることができる」の質問に対して、肯定的な回答の割合が低く、今後もICT機器の活用機会を増やし、スキルを高めていく必要がある。

今後の取組(アクションプラン)

今後も、主体的・対話的で深い学びを重視した授業づくりに取り組んでいく。昨年度より取り組んでいる研究教科である国語科の学習を中心に、言語活動を工夫し、自分の考えを伝え合うことができる子どもの育成を目指していく。また、ICT機器の活用については、校内で、授業の中でどのように取り入れていけるかについての研究を進め、児童が自然とICT機器に触れる機会を増やし、スキルの向上を目指していく。

【 全体の概要 】

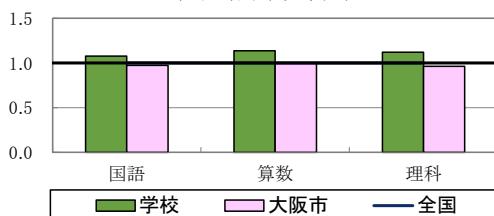
平均正答率 (%)

	国語	算数	理科
学校	72	66	64
大阪市	65	58	55
全国	66.8	58.0	57.1

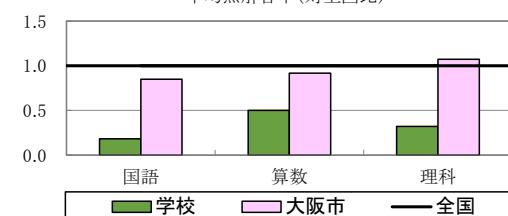
平均無解答率 (%)

	国語	算数	理科
学校	0.6	1.8	0.9
大阪市	2.8	3.3	3.0
全国	3.3	3.6	2.8

平均正答率(対全国比)



平均無解答率(対全国比)



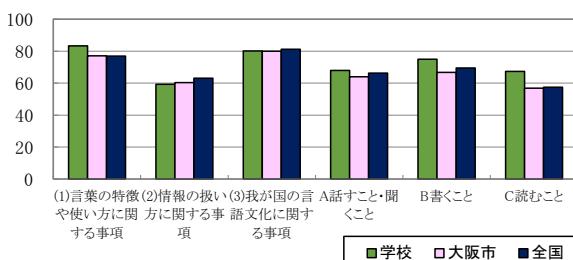
【 国 語 】

学習指導要領の内容	対象設問数(問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
(1)言葉の特徴や使い方に関する事項	2	83.3	77.1	76.9
(2)情報の扱い方に関する事項	1	59.3	60.4	63.1
(3)我が国の言語文化に関する事項	1	80.2	79.9	81.2
A 話すこと・聞くこと	3	67.9	64.0	66.3
B 書くこと	3	74.9	66.7	69.5
C 読むこと	4	67.3	56.9	57.5

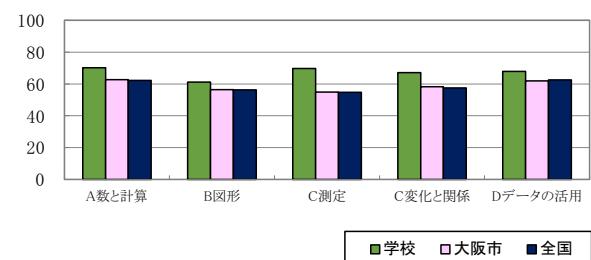
【 算 数 】

学習指導要領の領域	対象設問数(問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
A 数と計算	8	70.2	62.7	62.3
B 図形	4	61.1	56.4	56.2
C 測定	2	69.8	54.9	54.8
C 変化と関係	3	67.1	58.2	57.5
D データの活用	5	67.9	61.9	62.6

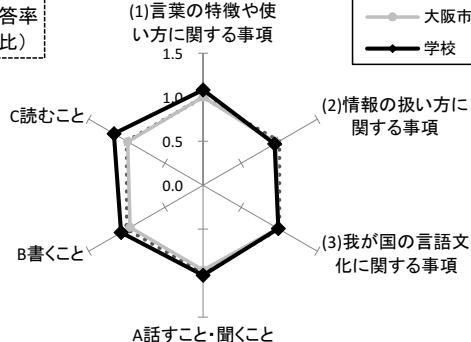
国語 内容別正答率(学校、大阪市、全国)



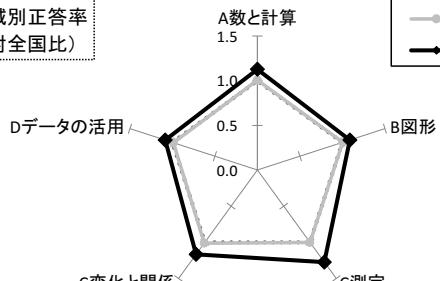
算数 領域別正答率(学校、大阪市、全国)



国語
内容別正答率
(対全国比)

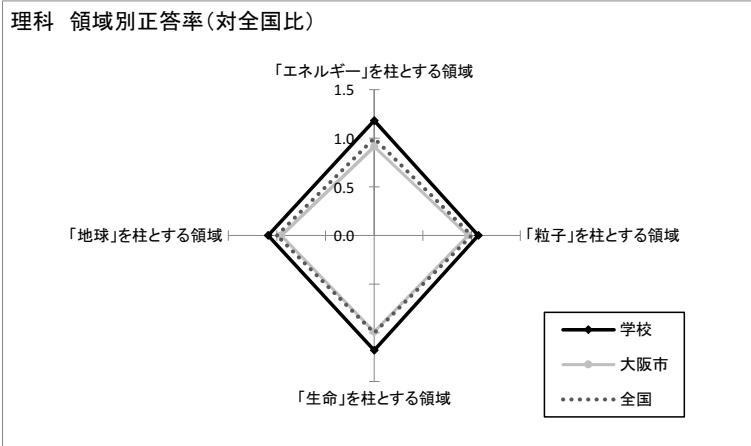
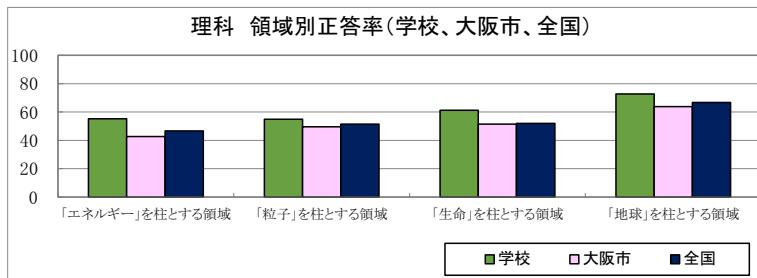


算数
領域別正答率
(対全国比)



【 理科 】

学習指導要領 の区分・領域	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)			
		学校	大阪市	全国	
A 分 区	「エネルギー」を 柱とする領域	4	55.2	42.7	46.7
	「粒子」を 柱とする領域	6	54.9	49.5	51.4
B 分 区	「生命」を 柱とする領域	4	61.3	51.4	52.0
	「地球」を 柱とする領域	6	72.8	63.8	66.7



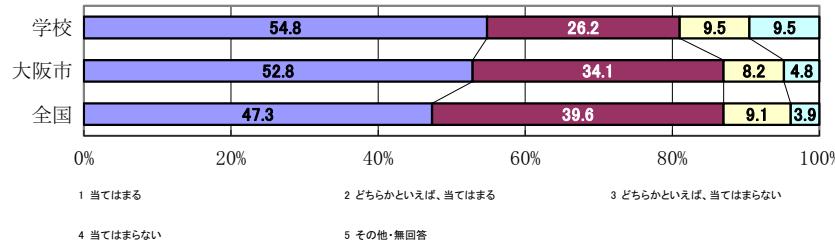
児童質問より

■1 ■2 □3 □4 □5 ■6 ■7 ■8

質問番号
質問事項

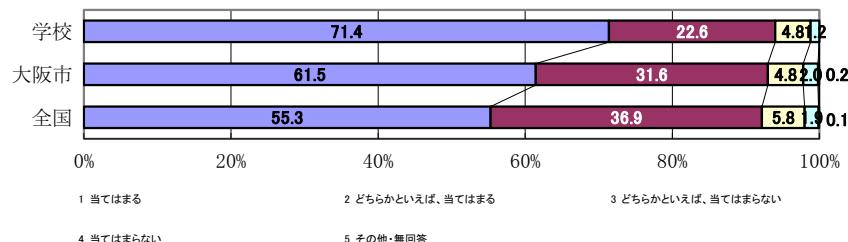
5

自分には、よいところがあると思いますか



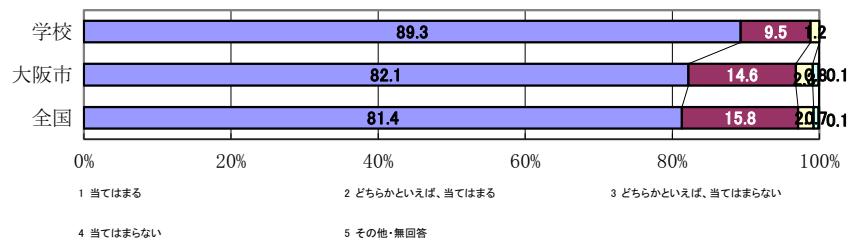
6

先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか



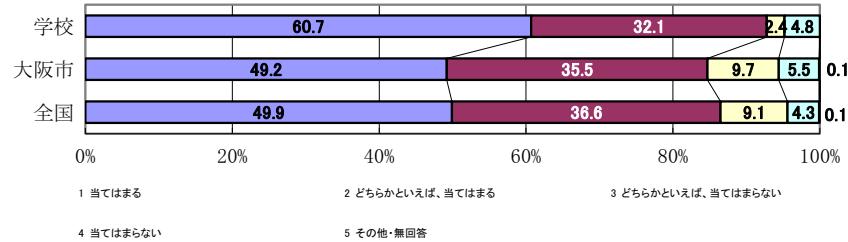
9

いじめは、どんな理由があつてもいけないことだと思いますか



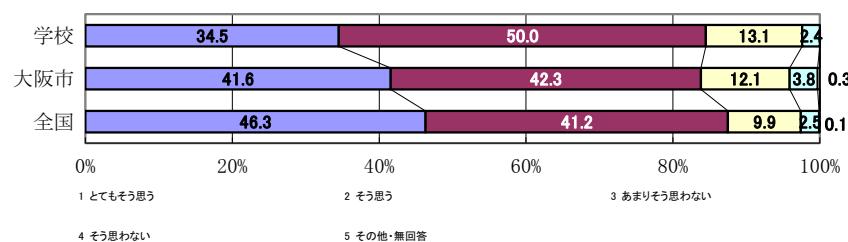
12

学校に行くのは楽しいと思いますか



82

5年生までの学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を活用することについて、次のことはあなたにどれくらい当てはまりますか。(7)友達と協力しながら学習を進めることができます



学校質問より

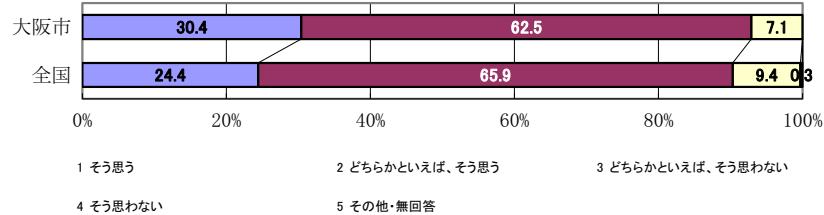
■1 ■2 ■3 ■4 ■5 ■6 ■7 ■8 ■9 ■10

質問番号
質問事項

7

調査対象学年の児童は、熱意をもって勉強していると思いますか

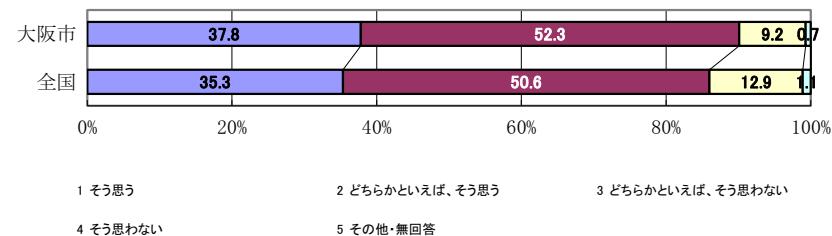
学校 「そう思う」を選択



8

調査対象学年の児童は、授業中の私語が少なく、落ち着いていると思いますか

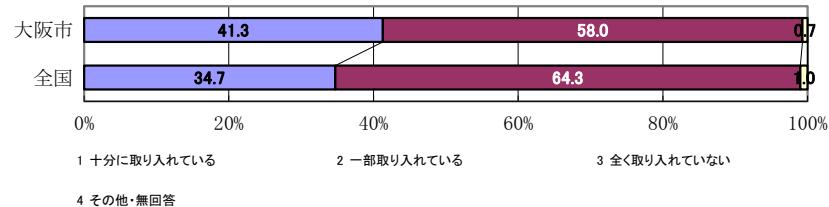
学校 「そう思う」を選択



13

ICTを活用した校務の効率化(事務の軽減)の優良事例を十分に取り入れていますか

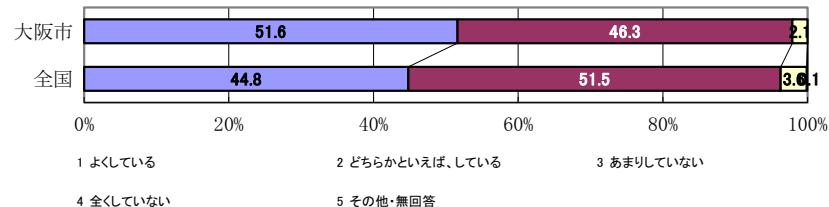
学校 「十分に取り入れている」を選択



17

言語活動について、国語科を要としつつ、各教科等の特質に応じて、学校全体として取り組んでいますか

学校 「よくしている」を選択



18

授業研究や事例研究等、実践的な研修を行っていますか

学校 「よくしている」を選択

